



南っ子だより



学校教育目標 「共に輝く たくましい 南っ子」

重点目標 「自分の考えをもち、表現しよう」「人を大切にしよう」「目標に向かって、挑戦しよう」

文責 飯田 英晃
伊豆市柏久保 425-1
0558-72-0149



全国学力・学習状況調査の結果

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年度の全国学力・学習調査(対象:小学校6年生)の結果が示されました。下の表は、全国の平均正答率について、全国と本校6年生の結果を比較したものです。

【本校・全国の平均正答率の比較】

	国語	算数	理科
本校	○	△	○

◎…全国より高い

○…全国と同程度

△…全国より低い

全国学力・学習状況調査の目的は「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子どもたちの学力向上のために生かしていくこと」にあります。

そこで、本校の職員研修で調査結果から状況を把握し、各学年段階で身に付けるべき力とそのために必要な教育活動について話し合いました。研修の内容についてご報告いたします。

☆国語について

「既習の漢字を正しく書くことができる問題」や「時間の経過による言葉の変化に関する問題」が全国平均を上回っていました。一方、「話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること」や目的に応じて必要な情報を見つけること、「条件のある作文」に苦手な面が見られました。すべての問題は、資料が多く、問題文が長いために、何を答えるのか戸惑うことが多かったようです。

☆算数について

「平行四辺形の性質を元にコンパスを用いて作図する問題」や「台形の性質や意味を理解し選択する問題」、「数直線に示された分数を答える問題」が全国平均を上回っていました。一方、「図形の分割を利用した面積の求め方」や「小数のたし算を解くときの位の捉え方」、「伴って変わる二つの数量から規則性を見いだす問題」の正答率が低くなっていました。問題文が長く資料も多いので、それに戸惑ってしまい、問われていることを正しく把握することに苦労していました。

☆理科について

「電気の通る回路(直列つなぎ)を考える問題」や「電磁石の強さが変わるしくみを答える問題」、「ヘチマの花の造りや受粉の知識を問う問題」が全国平均を大きく上回っていました。一方、「水の蒸発や結露など、状態変化(固体・液体・気体)の知識を問う問題」の正答率が低くなっていました。

このような状況把握をもとに、「読む活動の機会を増やすこと」を1つの対策と考えました。読書活動の充実や朝学の中で長文理解の問題に取り組み、文や資料を読むことの抵抗を和らげ、理解する時間を短くし、自分の意見や考えを書くことにつなげていきます。

南小の子どもたちの実態を把握しながら、授業や家庭学習において、既習事項が定着し、主体的に学びたいと思えるような場面を設定し、積み重ねていきます。今後とも様々な面で、ご支援・ご協力をよろしくお願いします。